

オランダ自転車市況-2015

1. 全体の販売動向

RAI(オランダ車輛工業会)、BOVAG(オランダ自動車自転車商業組合)によると、2015年のオランダ自転車市場の販売台数は前年比6.5%減の98.3万台となった。昨年ようやく減少傾向に歯止めがかかったと思われたが、2015年は再び減少に転じ、長らく維持してきた100万台の大台も割り込んだ。しかしながら、販売金額については、2015年は前年比1.4%増の8億9,902万ユーロ(1,123億7,763万円)と前年より僅かだが増加した。オランダの新車販売は2015年に台数は不振となったが、販売金額は堅調に推移する結果となった。その理由は、全体的な販売台数の落ち込みの中で、他車種に比べて高額な電動アシスト自転車(EPAC)の販売が前年より大幅に増加したためである。

平均販売価格については、上述のEPAC販売増により、2015年は自転車販売業全体で前年比8.3%増の914ユーロ(114,250円)であり、従来から高額商品の取り扱いが多い自転車小売専門店では、同比8.6%増の1,058ユーロ(132,250円)となった。両平均価格とも前年に比べ大きな伸びを見せ、特に自転車小売専門店の同価格は、1,000ユーロを超えるまでに達した。

表1: 自転車販売台数及び金額の推移

年	2011	2012	2013	2014	2015
販売台数(万台)	119.8	103.5	100.8	105.1	98.3
販売金額(万ユーロ)	87,924	76,916	79,726	88,661	89,902

表2: 平均販売価格の推移 (単位:ユーロ)

年	2011	2012	2013	2014	2015
平均価格(全体)	734	743	791	844	914
平均価格(自転車小売専門店)	960	964	989	974	1058

2. 業態別、価格帯別販売動向

業態別売上比率は、「自転車小売専門店」は前年より1ポイント減少し70%となった。それに伴い、ディスカウントストアやネットショップを含む「量販店、スーパーなど」は前年より1ポイント増え30%となった。かつて75%前後の高い比率を維持した自転車小売専門店の売上比率は、ここ数年、一旦は7割の大台を切るまでに落ち込んだが、2014年より復調し2015年も7割を維持し堅調であった。オランダの消費者は、品質やサービスを重視し、自転車小売専門店で購入を希望する傾向が依然強く、特にEPACを購入する場合、その傾向が顕著

となり、安価な輸入車よりも高品質の自国ブランド車が好まれているとみられる。

価格帯別売上比率は、10年程前までは全体の3割を占め、最多比率であった300ユーロ(37,500円)以下の最も低い価格帯は年々減少を続け、2015年は前年より2ポイント減少し最少比率の12%となった。それに次ぐ301~499ユーロ(37,625~62,375円)の価格帯は前年同様、中価格帯の500~699ユーロ(62,500~87,375円)は1ポイント減、更に高価格帯700~899ユーロ(87,500~112,375円)は4ポイント減となり特に減少が目立った。低~中価格帯が減少傾向にある一方、最高価格帯900ユーロ(112,500円)以上は、2015年には6ポイント増と大きな伸びを見せた。依然として最高価格帯が最多比率であり、全体の3分の1を占めるまでになった。ここ数年、高価格帯へ移行する傾向が続いているが、EPAC販売増加がその要因の一つであると考えられる。

表 3: 業態別売上比率の推移

販売形態	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
自転車小売専門店	69%	66%	68%	71%	70%
量販店、スーパーなど	31%	34%	32%	29%	30%

表 4: 価格帯別売上比率の推移

価格帯(ユーロ)	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
300以下	22%	22%	18%	14%	12%
301~499	18%	11%	15%	17%	17%
500~699	14%	17%	21%	22%	21%
700~899	21%	20%	18%	20%	16%
900以上	25%	30%	30%	27%	33%

3. 車種別販売動向

車種別売上比率では、オランダで人気の高いシティ車(ダッチバイク)を含む一般用自転車が例年同様、最多比率を占めてはいるものの、前年より9ポイント減少し、5割の大台も割り込むほどまでに落ち込んだ。また、ハイブリッド車(クロスバイク等)は前年より2ポイント減となり年々減少が続いている。一方、子供車は前年より2ポイント増加し、ここ数年は14%前後で推移している。

電動アシスト自転車(EPAC)については、前年より7ポイント増の28%となり、例年にも増す高い増加率を見せ、一般用自転車に次ぐ第2位の車種の地位を更に固めた。2015年のEPAC販売台数は前年比23.8%増の27.6万台となり、2012年に一時的な停滞を見せた後は、再び増加傾向を見せている。

電動アシスト自転車(EPAC)よりもモーター出力やアシスト速度が高い「Speed Pedelecs」については、高額スポーツ車の需要が高く、比較的起伏の多い地形であるドイツ南部、スイス及びオーストリアを商圏とするいわゆる「ドイツ語圏」市場で普及が先行している印象があった。その中でも特にスイスは、velosuisseによると、2015年の電動自転車販売数6.6

万台（前年 5.7 万台）のうち EPAC は 4.9 万台（同 4.2 万台）であり、Speed Pedelecs は前年より 2,000 台多い 1.7 万台となった。一方、オランダでは 2015 年の Speed Pedelecs の販売数は 3,600 台（前年 2,500 台）とみられ、その普及は緩やかである。なお、同国では同車種へ乗車の際はヘルメット着用が 2017 年 1 月より義務化されるという話もあり、その措置により同車種販売台数や普及度合いはどうか、更には他の欧州諸国へどのような影響があるのか、今後の動向を注視したい。

表 5：車種別売上比率の推移

車種	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年
一般用自転車	53%	51%	50%	51%	42%
ハイブリッド車	9%	8%	8%	7%	5%
子供車	14%	14%	13%	12%	14%
電動アシスト自転車	15%	17%	17%	21%	28%
その他 ※	9%	10%	10%	9%	11%

※その他には MTB/ATB、ロードレーサー及び折りたたみ車が含まれる

表 6：電動アシスト自転車販売台数の推移（単位：万台）

年	2011	2012	2013	2014	2015
電動アシスト車販売台数	17.8	17.5	19.2	22.3	27.6

以 上

統計出所： RAI/BOVAG